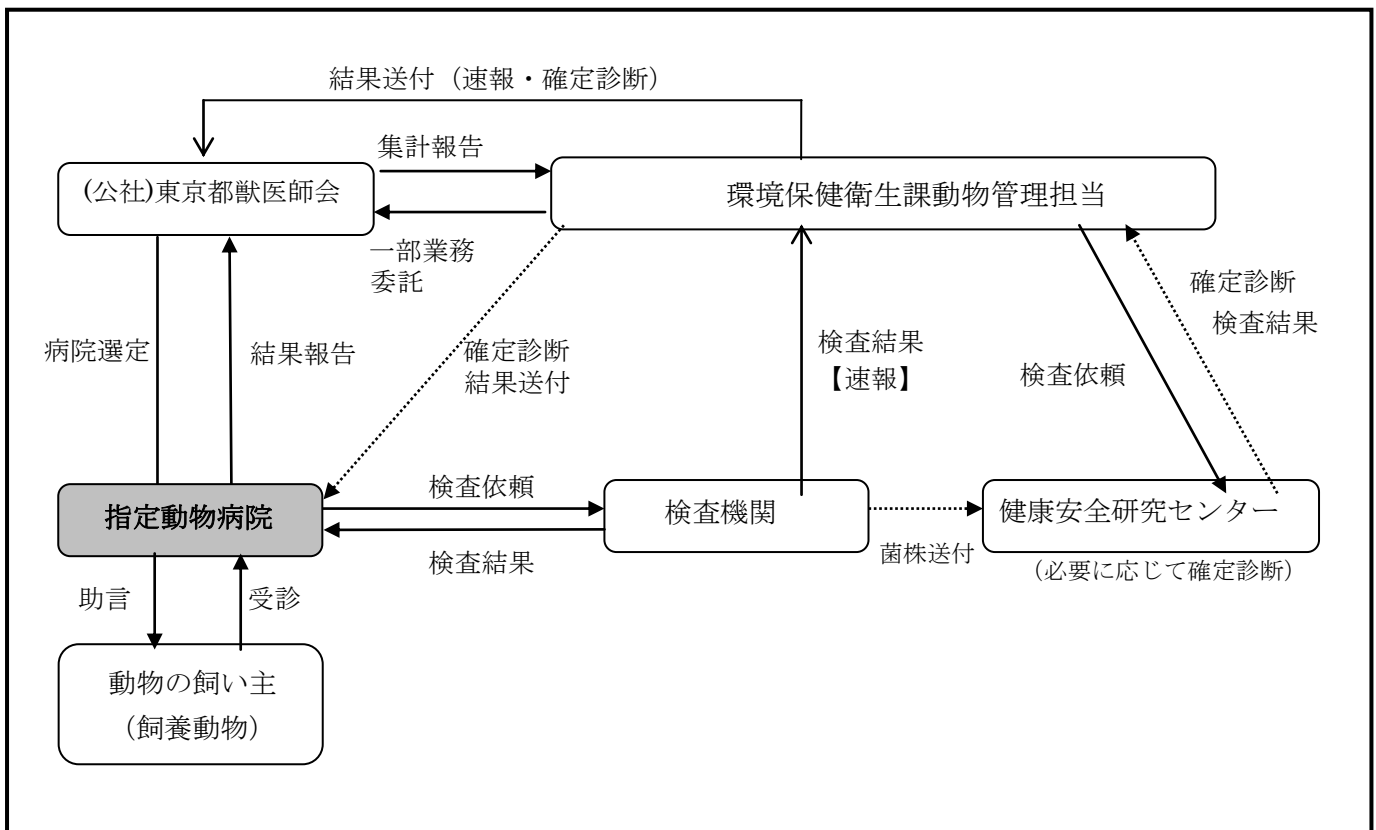


平成30年度動物病院における動物由来感染症モニタリング事業結果  
(中間報告)

1 目的

動物由来感染症の動物での発生状況を把握するため、動物病院における感染症の診断状況を集約し、動物由来感染症の人への感染を防止するための必要な措置を講じることを目的とした。

2 事業概要



1 モニタリング調査

【実施期間】 平成30年4月から平成31年3月まで

【調査対象動物】 指定動物病院を受診した犬・猫

【調査対象とする動物由来感染症】

犬	猫
皮膚糸状菌	皮膚糸状菌
疥癬	疥癬
犬糸状虫症	犬糸状虫症
回虫症	回虫症
ジアルジア症	ジアルジア症
瓜実条虫症	瓜実条虫症
犬ブルセラ症	トキソプラズマ症

【調査方法】 指定動物病院20病院における、月ごとの診察頭数及び調査項目に感染していると診断した頭数の報告を受ける。

## 2 サンプリング調査

【実施期間】 平成30年4月から平成31年3月まで

【調査対象及び検体数】 指定動物病院のうち病原体定点6病院において、飼い主から了承を得られた犬及び猫の糞便 計118検体

【調査対象とする病原体及び調査方法】

検査項目	調査方法
黄色ブドウ球菌 大腸菌、大腸菌O抗原 サルモネラ エルシニア・エンテロコリチカ 赤痢菌 腸炎ビブリオ バシラス・セレウス カンピロバクター	分離培養法

【調査方法】 病原体定点から検査機関に、便検査を依頼し、検査結果の報告を受ける。

## 3 調査結果

### (1) モニタリング調査

平成30年4月から同年11月まで、指定動物病院20病院を受診した犬、猫85,430頭について調査を行った。内訳は次のとおりである。

- ・ 犬 56,164頭 (区部：38,195頭、多摩部：17,969頭)
- ・ 猫 29,266頭 (区部：21,915頭、多摩部：7,351頭)

#### ア 犬の診断状況

受診した犬56,164頭のうち、39頭(0.07%)についてモニタリング対象の感染症と診断された。各疾病の内訳は、表1のとおりである。

表1 犬の診断状況

調査期間	受診頭数	陽性頭数 (括弧内は陽性率)						
		皮膚糸状菌症	疥癬	犬糸状虫症	回虫症	ジアルジア症	瓜実条虫症	犬ブルセラ症
4月	8,724	0	1 (0.01%)	0	0	1 (0.01%)	1 (0.01%)	0
5月	8,378	2 (0.02%)	0	0	1 (0.01%)	4 (0.05%)	0	0
6月	7,523	2 (0.03%)	0	0	0	2 (0.03%)	1 (0.01%)	0

調査期間	受診頭数	陽性頭数（括弧内は陽性率）						
		皮膚糸状菌症	疥癬	犬糸状虫症	回虫症	ジアルジア症	瓜実条虫症	犬ブルセラ症
7月	6,932	3 (0.04%)	1 (0.01%)	0	0	1 (0.01%)	2 (0.03%)	0
8月	6,408	2 (0.03%)	2 (0.03%)	0	3 (0.05%)	3 (0.05%)	0	0
9月	6,099	2 (0.03%)	0	0	0	0	1 (0.02%)	0
10月	6,178	0	0	0	0	0	0	0
11月	5,922	2 (0.03%)	0	0	1 (0.02%)	0	1 (0.02%)	0
12月								
1月								
2月								
3月								
区部計	38,195	7 (0.02%)	0	0	3 (0.01%)	8 (0.02%)	3 (0.01%)	0
多摩部計	17,969	6 (0.03%)	4 (0.02%)	0	2 (0.01%)	3 (0.02%)	3 (0.02%)	0
総計	56,164	13 (0.02%)	4 (0.01%)	0	5 (0.01%)	11 (0.02%)	6 (0.01%)	0
(参考) 29年度計	78,882	26 (0.03%)	5 (0.006%)	1 (0.001%)	3 (0.004%)	8 (0.01%)	4 (0.005%)	0

#### イ 猫の診断状況

受診した猫 29,266頭のうち、83頭(0.28%)についてモニタリング対象の感染症と診断された。各疾病の内訳は、表2のとおりである。

表2 猫の診断状況

調査期間	受診頭数	陽性頭数（括弧内は陽性率）						
		皮膚糸状菌症	疥癬	犬糸状虫症	回虫症	ジアルジア症	瓜実条虫症	トキンプラズマ症
4月	3,544	4 (0.11%)	1 (0.03%)	0	0	0	1 (0.03%)	0
5月	3,793	3 (0.08%)	0	0	4 (0.10%)	0	0	0

調査期間	受診頭数	陽性頭数 (括弧内は陽性率)						
		皮膚糸状菌症	疥癬	犬糸状虫症	回虫症	ジアルジア症	瓜実条虫症	トキソプラズマ症
6月	4,055	3 (0.07%)	1 (0.02%)	0	7 (0.17%)	0	1 (0.02%)	0
7月	4,103	3 (0.07%)	0	0	6 (0.15%)	0	1 (0.02%)	0
8月	3,574	3 (0.08%)	1 (0.03%)	0	4 (0.11%)	0	2 (0.06%)	0
9月	3,201	5 (0.16%)	1 (0.03%)	0	9 (0.28%)	0	3 (0.09%)	0
10月	3,545	4 (0.11%)	1 (0.03%)	0	3 (0.08%)	1 (0.03%)	0	0
11月	3,451	1 (0.03%)	0	0	8 (0.23%)	0	1 (0.03%)	1* (0.03%)
12月								
1月								
2月								
3月								
区部計	21,915	17 (0.08%)	4 (0.02%)	0	31 (0.14%)	1 (0.005%)	6 (0.03%)	0
多摩部計	7,351	9 (0.12%)	1 (0.01%)	0	10 (0.14%)	0	3 (0.04%)	1 (0.01%)
総計	29,266	26 (0.09%)	5 (0.02%)	0	41 (0.14%)	1 (0.003%)	9 (0.03%)	1 (0.003%)
(参考) 29年度計	44,160	41 (0.09%)	2 (0.005%)	1 (0.002%)	42 (0.10%)	5 (0.01%)	28 (0.06%)	0

※臨床症状（ふらつき、凶暴化）、トキソプラズマ抗体検査、治療反応（クリンダマイシン投与により治癒）よりトキソプラズマ症と判断

## (2) サンプルング調査

平成30年4月から同年11月までの計118検体（犬：63検体、猫：55検体）について調査した。内訳は次のとおりである。

- ・ 犬 63頭（区部：37頭、多摩部：26頭）
- ・ 猫 55頭（区部：34頭、多摩部：21頭）

犬については、調査した63頭のうち、54頭(85.7%)についてサンプルング調査対象の菌が検出された。猫については、調査した55頭のうち、42頭(76.4%)についてサンプルング調査対象の菌が検出された。各菌の内訳は、表3のとおりである。

表3 犬・猫のサンプリング調査結果

対象動物	地域	検体数	陽性検体数（陽性率）										
			黄色ブドウ球菌	大腸菌	大腸菌O抗原	サルモネラ	エンテロコリチカ	エルシニア・	赤痢菌	腸炎ビブリオ	バシラス・セレウス	カンピロバクター	
												<i>C. jejuni</i>	<i>C. coli</i>
犬	区部	37	1 (2.7%)	29 (78.4%)	7 (18.9%)	0	0	0	0	0	0	0	0
	多摩部	26	0	24 (92.3%)	3 (11.5%)	0	0	0	0	0	0	0	0
	総計	63	1 (1.6%)	53 (84.1%)	10 (15.9%)	0	0	0	0	0	0	0	0
猫	区部	34	0	26 (76.5%)	8 (23.5%)	0	0	0	0	0	0	0	0
	多摩部	21	0	16 (76.2%)	3 (14.3%)	0	0	0	0	0	0	0	0
	総計	55	0	42 (76.4%)	11 (20.0%)	0	0	0	0	0	0	0	0

検査機関で大腸菌O抗原陽性となった大腸菌菌株は、毒素産生性試験等により、腸管病原大腸菌の病原因子の有無を確認した。毒素産生性試験が陽性であった場合、薬剤感受性試験を実施した。結果は表4及び表5のとおりである。

また、検査機関で黄色ブドウ球菌陽性となった1検体の菌株は、コアグラゼ型別試験、毒素産生性試験により、病原因子の有無を確認した。結果は表6のとおりである。なお、本黄色ブドウ球菌菌株は、MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）であった。

表4 毒素産生性試験等結果

対象動物	菌株数	陽性菌株数			
		毒素原性大腸菌 (ETEC)	病原血清型大腸菌 (EPEC)	腸管出血性大腸菌 (EHEC)	腸管凝集性大腸菌 (EAggEC)
犬	10	0	1	0	0
猫	11	0	0	0	0

表5 薬剤感受性試験結果

	由来	血清型	薬 剤																
			A B P C	C T X	C F X	I M P	M E P M	S M	K M	G M	A M K	T C	C P	F O M	N A	N F L X	O F L X	C P F X	S T
EP EC	犬	0115:H25	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S

S : 感受性

表6 コアグラーゼ型別試験、毒素産生性試験結果

対象動物	菌株数	コアグラーゼ型	毒素産生	備考
犬	1	Ⅲ型	Ent. (-)	MRSA